

学ぶ喜び

2026.3.16

VOL.25

ー仲間とともにつながる学校へー

っていたのが正直なところですが。しかし、先日実施したアンケートの「これからの時代、生徒にどんな力をつけさせたいか」という問いへの回答には、立場や熱量の差を超えた、共通点がありました。「自分で考えて動く力」「失敗しても折れない心」「他者を思いやる優しさ」。日頃の忙しさに隠れがちな、先生方の「生徒への思い」がありました。

私たちがめざす「学ぶ喜び」の正体

これまで、私たちは「分かりやすい説明」や「整理されたプリント」を準備し、授業に臨んできました。しかし、皮肉なことに、教師が頑張って準備をし、教え込めば教え込むほど、生徒は「待ち」の姿勢になり、主体性は失われていきます。私たちがアンケートに書いた「主体性」や「思考力」を育むためには、これまでの「教師が頑張る授業」を卒業する必要があります。これは、学習指導要領の方向性が示す「個別最適な学びと協働的な学び」の方向性とも完全に一致します。

生徒が自ら問いを立て、仲間と対話し、学びを楽しむ姿。それが実現した時、教師の役割は「知識の伝達者」から「伴走者」へと変わります。それは負担増ではなく、「教師側のゆとり」を生み出し、授業という本業の中に「教える苦勞」以上の「ともに学ぶ喜び」を再発見するプロセスなのかもしれません。

私たちが育みたい「未来を切り拓く力」～教員アンケートより～

今年度の教員アンケートから見えた「生徒に身につけてほしい力」を集約



まずは「めざす姿」のイメージをもつことから

来年度の研修では、まず「私たちが願う生徒の姿」を具体的にイメージする時間を持ちたいと考えています。「主体的な生徒」とは、授業中、具体的にどんな表情をし、どんな言葉を発しているのか。そのビジョンが共有できれば、もっと授業づくりを探究できます。先生方の協働的な学び(=つながり)こそが、生徒に還元できる最大の教育資源です。

研修のご案内

3/26 14:00～2時間程度(出入り自由・参加自由)

場所：1-3教室(予定)

テーマ：学級づくり～4月中頃までの心構えと打ち出す手～

※学級担任として大切にしたいことを確認します。

担任久しぶりの方も、初めての方も、ぜひ。

講師：大阪大学非常勤講師 藤井浩喜先生